



Links ニュース NO.2



発行:中川ひろじ後援会 松本市開智 1-6-23 TEL0263-33-1700 FAX0263-33-1280 メール white.otti@gmail.com

未来と〜く vol.1 開催されました

10/22（月曜日）ひろじ Links が主催し、第1回未来と〜く「教育・若者・子育て支援」のパネルディスカッション及び、意見交換会を、松本市勤労会館に於いて開催しました。20余名のご参加をいただきました。

パネラーに、森谷裕子さん（子育てアドバイザー）と、藤本豊さん（明治大学兼任講師）をお迎えして今現在の教育現場、子育て、そして、若者に起こっている出来事をお話しいただきました。

森谷さんからは「子どもたちが自信を失い、そのお母さんも自信を失う状況が存在しています。子どもたちが言葉で自分の違和感や、思ったこと、感じたことを伝える方法を習得していくという時間が圧倒的に少なくなっています。『勝ち負けを目的として言葉を使うことを止めましょう』と、提案しています。自己表現ができる社会であって欲しいと思います」と、お話をいただきました。

藤本さんからは「教員に求められる業務量が増加し忙しくなっており、生徒と向き合う時間が失われている。生徒は考えることより、教員指導要領に沿って求められたことに答える、という教育環境におかれてしまっている。教員の環境を整備することもこれからの県行政の役割ではないのか」と、提言をいただきました。会場の参加者のなかには、幼稚園の先生や、コミュニケーションのサポートをする方、町会長さんにもご参加いただき、活発な意見交換を行うことができました。

次回、「未来と〜く vol.2」は「子どもの貧困」について対話を行います。11/29（木曜日）18時に勤労会館二階にて開催いたします。お時間合いましたら、是非お運びください。

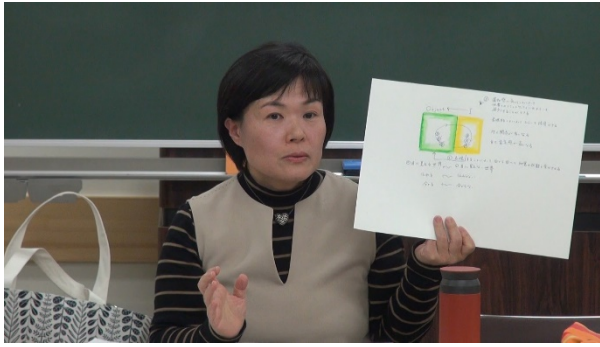
中川ひろじの政策 「子どもたちの生きる力を育てます」

一人ひとりの子どもは、生きる力をもっています。型にはめた教育ではなく、子どもたちの生きる力を信じ、一人ひとりの子どもの力を発揮できる教育をつくります。

先生の多忙化をチェックし、子どもたちの個性に向き合える教育環境をつくります。



～・～・森谷裕子さんのおはなし～・～・



全ての人が自分の持っている違和感を言葉にすること。違和感に気づき他者とのコミュニケーションのエラーを減少させることができるようになれば、対人関係がよくなっていきます。

子どもたちにとっては、「目に見えない部分」言葉に出来ないもやもやした感覚を言葉にするまで待ってもらえれば、安心感をもつことができます。

他の子と同じ行動がとれない子どももいれば、同じ行動をすることで安心感を得る子もいます。同じことをしたくない。という子にとってはそうしないことが、自分にとって正直なことです。しかし、お母さんは「他の子と違うのは、自分の育て方に問題があるのでは」と、自分を責めてしまう場合があります。同時に、一般社会においても「ほかの子と同じようにできないことが可哀そうだ」という考え方を持つ方もいらっしゃいます。お母さんの罪悪感を取り除いて、また社会も「一人ひとりが生きる力をもっている」ということを信じて見守ることが大切だと思います。一人ひとりの在り方が尊重されるように、それぞれの関係性・社会環境を変えてゆくことが求められているのではないのでしょうか。

～・～・藤本豊さんのおはなし～・～・



現在の大学の授業は、「前期・後期」に分けられ、かつてのように通年での講義がなくなっています。そのため教える方も、どうしても知識の切り売りにならざるを得ない部分があります。

また、20年位前から教えていますが、読書感想文を書く課題を出すと、「要約はできますが、どう書けばよいのですか」など、自分で考えることが出来ない学生が散見されます。このように、本来自分を表すもの

であったはずの言葉が、失われてきてしまっていると感じます。

今、「考えさせる教育」という方向に文科省も変わってきましたが、教員が付いていけない、という状況があります。教員の勤務形態や、教育環境の整備をしていくということが県行政に求められていると思います。

未来と～く vol.2
11月29日(木)
18:00～

子どもの貧困

パネラー ハ木航さん (仮) 生存を支える会代表
パネラー 佐藤まり子さん 就労コーディネーター
パネラー 竹内忍さん 高校教員